

平成31年度 中学校組織力向上のための実践研究事業実施報告書（「タテ持ち」型）

学校名	四万十市立中村西中学校
取組内容等掲載ウェブサイト URL	http://kochinet.ed.jp/nakamuranishi-j/
取組の成果	
<p>○組織的・協働的に取り組むための仕組みづくりの確立</p> <p>○対話的な学びに重点を置いた授業研究及び授業改善</p> <p>○教科内外で授業を見合う日常的なOJTの充実</p>	

1. 具体的な取組

- 主幹教諭が中核となって、組織体制を整え、教員同士が学び合える仕組みを構築し、学び合う学校風土を高める取組
- *主幹教諭は管理職会での打ち合わせをもとに、週1回のプロジェクト会を開催する。そして、月2回の教科主任会を実施し、教科間のライン機能の強化を推進した。
 - ・週時程に位置づけた定例のプロジェクト会（管理職、教務主任、研究主任）を原則週1回実施した。その中で教科主任会の日程調整及び校内研修の内容等について確認した。
 - ・教科主任会の内容が、プロジェクト会からの指示や伝達だけでなくボトムアップの取組になるよう、各教科の取組を共有したり、解決策を考えあったり意見を吸い上げたりするなど、意見交換の時間をとりながら進めた。
 - ・縦のラインだけでなく横のラインもつなげ広げていけるように、学年主任も参加した教科主任会の中で「学年部から各教科へ、各教科から学年部への提案や協力」を出し合い、共有する機会を設定した。
- *5教科+技能教科のタテ持ちを行い、年間計画に基づいた教科主任会と教科会を確実に実施し、日常的なOJTを仕組むとともに、進捗管理を主幹教諭が行う。
 - ・教科主任会を、年間計画に基づいて毎月校内研または職員会の後に月2回実施し、学力向上、授業改善に向けての取組の方向性や進捗状況について確認した。
 - ・主幹教諭は教科主任会や教科会、授業参観を通して各教科の取組の進捗状況を把握しながら、必要に応じて指導主事を招聘することを校長に打診し、組織としての取組となるよう調整を図った。
 - ・教科会の内容は記録をとりファイリングすることで、常に他教科の取組や確認事項を見ることができるようにした。
- *主幹教諭は各主任との調整役となって、各学年、各学級に差が出ないように学力向上の取組を学校体制で推進できるよう調整を図る。
 - ・文部科学省や高知県教育委員会が作成した事例集や学習シート類の活用状況を、教科主任会で確認するとともに、学力向上に向けた有効な活用方法について協議する中で、教科主任の意識向上を図った。
 - ・若年教員がベテラン教員の授業を見て学んだり、教科の壁を越えて指導技術について学び合ったりするために、授業を見合う風土づくりに取り組んだ。月に1回、他教科の授業を参観することとし、

参観者が授業の気づきを記入できる用紙（授業参観シート）を作成し活用した。参観者が記入した「授業参観シート」は主幹教諭がチェックした後授業者に返し、授業改善に役立てた。

○効果的な教科会の実施により個々の教員の力量差を埋め、授業力を高める取組

*教科内外で授業を見合う日常的なOJTの充実を図る。

- ・教科内外での授業参観を月1回は行う体制を整え、参観者が記入した授業参観シートを基に、教科会の中で授業の分析し、授業改善に向けた取組へつなげた。
- ・管理職が定期的に授業参観を実施し、参観後は管理職で授業スタンダードに照らし合わせた授業ができていたか分析を行い、課題や改善点などを共有し、主幹教諭が授業者に指導・助言を行った。また、主幹教諭が教科主任にその内容を伝達し、教科会において授業改善に向けた話し合いを実施した。

*西中スタンダードの実践と対話的な学びを生み出す授業実践に向け、年間6回の全校研（5教科＋体育）を実施する。

- ・研究主題に基づき、各教科で重点単元を決めて「課題設定」について研究した。実践研究については、全員が実践レポートにまとめ校内研修で報告会を行った後、研究収録に掲載して次年度の授業改善につなげている。
- ・すべての学級で5教科＋技能教科の全校研究授業を実施した。
 - 4/24 モデル授業（社会2-2 岩井）
 - 6/12 公開授業研①（国語3-2 石川）
 - 9/25 公開授業研②（理科1-1 渡会）
 - 10/23 公開授業研③（数学1-2 井上）
 - 11/20 公開授業研④（体育2-1 柿葉）
 - 1/22 公開授業研⑤（英語3-1 森原・谷岡）
- ・全校研究授業の際に、授業者は授業前に「教科の見方・考え方」と本時のポイントを研究主任に提出することで、参観の視点を絞る工夫を行った。事後協議では「課題の設定」「対話や議論」「考えの表出」の三つの視点で協議を行った。また、授業力チェックシートを活用して授業づくりの検証を行った。
- ・事後協議で出された課題については、教科主任会で具体的な改善策を協議し、学校全体の取組へつなげた。

*研究主題に迫る授業づくりのために、「課題の設定」を工夫し、授業に対話や議論が生まれ、生徒の「思考力・判断力・表現力」が高まるように、教科を越えて研究を進める。

- ・主幹教諭が定期的に教科会に参加し、板書計画や授業構想、「めあて」や「まとめ」、「振り返り」の充実に向けて、生徒のノートをもとに協議を深め、各教科の思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを推進した。
- ・研究主題に迫る授業づくりへの取組を推進するにあたって、主幹教諭と研究主任とが連携を図り授業の質的向上を目指した。その中で研究主題に向けた各教科と各学年の取組の相関図を作成し、「研究主題に向かって教科や学年で取り組むこと」を可視化した。その相関図も活用しながら各教科と各学年の取組を共有したり、教科間連携を推進したりした。
- ・教科担当教員が、月毎に授業前、授業中、授業後の取組を「授業の自己チェック」で自己評価を行った。主幹教諭と研究主任が協力して結果を分析し、全体で共有した。また、各教科会の中で互いの「授業の自己チェック」を見合い、授業改善の進捗状況を確認した。

- *ノート指導を充実させ、書く活動と振り返りが充実するように教科間で統一指導を行う。
 - ・生徒自身が毎時間の学習内容を整理し、自分の成長を実感しながら自己肯定感を高めていけるように、全教科で振り返りを書かせる取組を行った。また、振り返りを書かせる目的や指導の仕方などを校内研で協議し、教科主任会で繰り返し確認した。
 - ・本校の学習課題である「書く」ことに向けて教科主任会で協議し、すべての教科で単元の終了時には200字以上の振り返りを書かせ、学びを文章で表出する取組を行った。
 - ・教科主任会の中でノート指導について検討し、自分や友達の考えを記し、指導者や仲間の説明・発表からメモを取る習慣づけを全教科で行った。また、良いノートや振り返りは廊下に掲示し意欲付けを行った。

- *年間計画に基づいた教科会で学力調査等の分析を行い、授業改善への取組を活性化する。
 - ・各種学力調査に関して、教科会で分析や課題改善の方策を協議し、短期的な授業での改善策と長期的な学校としての取組を明確にし、教科主任会を通じてその取組の実施状況を確認した。

2. 取組の成果と課題

(1) 検証

指標・検証の方法	達成目標	検証結果
全国学力・学習状況調査	全国平均より各教科+3P	全国比 国語+5.2P 数学+4.2P 英語+3.0P
高知県学力定着調査	全国平均より各教科+3P 県平均より各教科+7P	教科 全国比 (県平均比) 【1年】 【2年】 国語+7.4P(+8.1P) +3.8P(+4.5p) 社会+4.9P(+7.8P) +3.2P(+5.0P) 数学+2.9P(+4.8P) +7.6P(+9.4P) 理科+3.6P(+5.8P) -1.2P(+1.5P) 英語-4.6P(+2.0P) -5.5P(+4.5P)
授業改善プラン (各教科で定めた指標)	各教科の到達目標を上回る	「学力定着」の項の目標値に対して (2学期総括時) 国語：B 社会：A 数学：B 理科：B 英語：A
授業の自己チェック表 (教師用) 授業評価アンケート (生徒用)	教員の意識：授業の自己チェック表において達成率を平均で90%以上 生徒の意識：授業評価アンケートで肯定的評価80%以上	授業自己チェック達成率(16項目) 【平均 81.6%】1月調査 「授業評価アンケート」肯定的評価 (2学期総括時) 国98.4%、社98.7%、数97.0%、 理96.3%、英96.9%、音99.7% 美94.6%、保体96.9%
学校評価アンケート	肯定的評価を85%以上	「組織運営・授業力向上・校内研修」に係る項目の肯定的評価 【平均 100%】

(2) 成果

- 主幹教諭が中核となって組織体制を整え、教員同士が学び合える仕組みを構築し、学び合う学校風土

を高める取組

- ・チームとして全員で取り組むことの重要性を校内研の中で繰り返し確認し合い、〔管理職会→プロジェクト会→教科主任会→教科会・学年会〕の流れや定期的な教科会・教科主任会、学年会などライン機能を整備できた。これらのことから、学校評価における「学校は組織として機能している」の項目で、教職員の肯定的評価は100%となり、全教職員が意欲を持って協働的に教育活動にあたることにつながったと思われる。

○効果的な教科会の実施により個々の教員の力量差を埋め、授業力を高める取組

- ・校内研で決めた全員の取組や各教科会の取組を整理し、教科主任会や教科会の中で研究の方向性を繰り返し確認することができ、目指す授業づくりに向けたベクトルがそろってきた。また、授業を見合う風土づくりの取組が推進でき、他教科の教員と学びあう関係づくりや若年教員の育成につながった。これらの取組が生徒の授業評価における肯定的評価につながったと思われる。
- ・主幹教諭と研究主任が連携して毎月実施した「授業の自己チェック」は、月毎に全体総括を行い、課題や指導の重点化を図りたい点を確認することを通して、本校の授業スタンダードを意識した授業改善が進んだ。

(3) 課題

①年間計画に基づいた教科主任会と教科会を確実に実施し、日常的に効果的な OJT を仕組む方法

- ・ライン機能を働かせ、組織的に取り組む意識は高まったが、教科主任の意識や技能教科の取組の差があり、個々の力量差を埋める支援や助言がさらに必要である。

②生徒の「思考力・判断力・表現力」が高まるように、教科を越えて研究を進める方法

- ・参観授業や「授業の自己チェック」の結果から、授業スタンダードに基づく授業展開はできているが、授業の中で振り返りの時間が確保できていないという課題があることがわかった。全教科で授業を振り返り学習内容を整理させることを通して、生徒自身に自分が何ができるようになったのかを気づかせ、達成感や自信を持たせる取組にはまだ至っていない。生徒の自己肯定感と、「思考力・判断力・表現力」を高めていけるように授業改善の継続的な取組が必要である。

③各学年、各学級に差が出ないような学力向上の取組を学校体制で推進できる仕組み

- ・高知県学力定着状況調査の分析より、基礎学力の定着が不十分な教科があることが分かった。また、教科会や校内研修で学力的に支援が必要な生徒への手立てが不十分であるという分析結果も出されている。

(4) 課題に対する次年度の重点的な取組（改善策等）

①年間計画に基づいた教科主任会と教科会を確実に実施し、日常的に効果的な OJT を仕組む方法

- ・組織的な取組となるようプロジェクト会で話し合った内容を基に、教科主任会を実施し、ライン機能を働かせた取組を継続させるが、各教科主任のレベルアップは必須であり、教科主任に教科会の取組に責任を持たせる意識付けを行う。
- ・技能教科主任の意識を高めるため、他教科との合同教科会を実施する。

②生徒の「思考力・判断力・表現力」が高まるように、教科を越えて研究を進める方法

- ・何をどのように学ばせるか、また、何ができるようになればよいのかを明確にしていける教科会となるよう、教科主任に意識させる。また、教科の本質に迫ることができる学習課題や発問を研究できる教科会となるよう、管理職・主幹教諭が支援していく。
- ・主幹教諭と研究主任が連携し、指導主事等の外部講師の招聘を計画・実施し、指導・助言を各教員の授業力向上につなげる。
- ・授業の終わりには振り返りをさせるなど、自分の考えを書く力を高めるようノート指導の充実に努め、思考力・判断力・表現力等の活用力を高める取組を充実させる。それぞれの教科のノートを持ち寄り、取組の進捗状況を教科主任会の中で確認していく。
- ・個々の授業力を上げていくために、授業実践の後の反省や課題をもとに指導案を修正したものを作成する。また、授業をビデオ撮影し、自己評価を授業改善に役立てていく取組の進捗管理を主幹教諭が行う。

③各学年、各学級に差が出ないような学力向上の取組を学校体制で推進できる仕組み

- ・教科会の中で実施した学力調査や定期テストの結果分析を通して生徒の実態を把握し、学年部会にも協力を求め、補充指導や宿題等の取組につなげていく。特に宿題についてはやり切らせることを徹底する。
- ・特に支援が必要な生徒に対しては、教科会で具体的な個別指導方法を考え、学年部会と連携し放課後学習支援への参加も促し、基礎学力の定着を図る支援を行う。
- ・各教科の課題を全体で共有し、帯学習や補習などの計画を調整し、学校全体で各教科の取組を支援していく。